

た。最年少の死亡例。  
また兵庫県西宮市は同日、新型インフルに感染した市内の8歳女兒

名古屋市の同日、愛知県清須市の県立高校2年の男子生徒(16)が新型インフルによる脳

出たため別の病院に入院。呼吸の状態が悪化し6日、人工呼吸器を装着したが、CT検査

# 精神疾患原因 遺伝子を特定

岐阜薬科大学大学院・原教授ら



原英彰教授

## 統合失調症など発症メカニズム解明に光

岐阜薬科大学大学院の原英彰教授(神経科学)らの研究グループが14日、統合失調症などの精神疾患の発症に関与する原因遺伝子を新たに特定した、と発表した。発症メカニズムの解明や新薬開発の手掛かりになると期待している。同日付の米国科学誌「PLoS ONE」に発表した。



この遺伝子は、細胞増殖因子の「HBE-EGF」。原教授によると、精神疾患の発症に関して、これまでに五つの原因遺伝子が発見されているが、統合失調症の三大症状とされる▽社会性行動の低下▽多動性▽記憶障害

## 多動性や記憶障害 幅広い症状に関与

伝子はHBE-EGF以外にはほとんどないとしている。

研究グループは、上皮成長因子EGFに着目し、5年前に研究を開始。EGF受容体に結合するHBE-EGFを欠損させたマウスを、正常なマウスと比較したところ、欠損マウスは運動量が増加したり、2匹をかごに入れても互いに意識する様子が見られにくいなどの行動障害が確認された。

HBE-EGFは、がん研究で近年注目されていたが、精神疾患に関連した報告は初めて。統合失調症の発症危険率は人口の約1%。現在の抗精神病薬は症状の緩和にはつながるが、根本的な回復に至る薬はほとんどないという。原教授は「発症メカニズムを解明し、新薬開発につなげたい」としている。